

あけましておめでとうございます

写真ニュース 2012 Winter NO.41

発行:埼玉県生活協同組合連合会
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5
TEL:048-844-8971
URL: http://saitama.kenren-coop.jp

平成23年度埼玉県消費生活功労者表彰 会員生協の2生協2人の方が受賞



消費者団体・生協役員を含む15人の受賞者の表彰式が埼玉県知事公館で行われました。県域団体・地域団体・生協を代表して3人の方が表彰状を授与されました。上田県知事は、「日頃からの消費者行政への協力への感謝と今後も質の高い消費者行政を目指すのでお力添えを」とあいさつされ、受賞者を代表して草加市くらしの会の尾上会長が謝辞を述べました。

埼玉県生協ネットワーク協議会第3回協議会 独占禁止法や公正取引委員会の役割、エコファーマーの活動を学ぶとともに食料自給率について考えました



模擬事情聴取の様子

公正取引委員会の庁舎を協議会委員38人で訪問し、公正取引委員会の組織、市場経済、独占禁止法、競争による消費者のメリット等の学習や、競争がないことのデメリットをシミュレーションゲームで体験しました。また、農林水産行政や食生活等の情報提供がされている農林水産省消費者の部屋も見学し、農林水産業に関する幅広いテーマを取り上げた特別展示を通してエコファーマー制度等を学びました。併設された食堂で、国産食材を使った昼食を取りながら食料自給率について考えました。

10/31

食の安全とTPPについての講演会と意見交換会 TPPをめぐる状況と概要、私たちの生活への影響を学びました



講師に滝澤昭義氏(NPO法人食農研センター理事長・元明治大学教授)を迎え、食の安全とTPPについて学習しました。参加による影響は、農業のみならず食の安全、金融や保険、医療等広範な21分野に及ぶことや各国独自の制度や仕組みが関税障壁として挙げられていること等を学びました。

「地方消費者行政を充実するため国による実効的支援を求める意見書を国会及び政府に提出することを求める請願書」が、9月埼玉県議会で採択されました



埼玉県議会自由民主党議員団を通じて提出した請願書(紹介議員 奥ノ木信夫県議団長「地方消費者行政を充実するため国による実効的支援を求める意見書を国会及び政府に提出することを求める請願書」)が、2011年9月定例会(県議会)において採択され、埼玉県議会議長より国会及び政府に意見書が提出されました。

埼玉県生協役員研修委託事業 東日本大震災におけるみやぎ生協の被害及び取り組みの報告会

震災時直後から職員を突き動かした 訳や生協の役割について学びました



生協・連合会の44人が参加し、みやぎ生協の五十嵐氏を講師に迎え学習会を行いました。みやぎ生協の概要と被害状況、「創業者のこだわりと阪神大震災でのコープこうべへの支援から学んだこと」が被災直後にもかかわらず職員を突き動かしました。この震災で得たものを糧に「今まで以上のみやぎ生協を作ること」「地域の復興のために全力を尽くすこと」の決意と、これまでの支援への謝意が述べられました。

12/2

埼玉県生協役員研修委託事業 監事監査の環境整備に関する指針～地域生協向け～ 監事監査の環境整備やガバナンスの重要性について学びました

日本生協連の宮部氏を講師に、生協・連合会の39人が参加し、研修会を行いました。生協における健全なガバナンスを実現する上での理事・監事の職務が十分に果たされることが重要な意義をもつこと、監事・監査の環境整備には、監事が主体性をもち代表理事との合意形成を行い一歩ずつ改善していくことが大切だと説明し、具体的な指針の内容について報告されました。

医療生協さいたま

「健康フェスタ～地域の安心をみんんでつくる～」で震災復興支援

11月5日・6日、さいたまスーパーアリーナで健康フェスタを開催しました。震災復興支援を目的にコープフェスタなどと同時開催され、2日間で10万人が訪れました。健康フェスタでは、健康チェックや健康相談、高齢者体験、発音体験、子どもコーナーなど18ブースを出展。他団体のご協力も得ました。健康チェックは1,000人を超える方が参加。医療生協さいたまの震災復興支援活動や放射線測定マップの紹介も行われ、関心を集めました。各ブースとも予想以上の参加者でにぎわい、医療生協さいたまとして170,665円の募金を集めることができました。



さいたまコープ

東日本大震災復興支援をテーマに「コープフェスタ2011 つなげよう笑顔」(主催:さいたまコープ、コープネット事業連合)を開催

11月5日・6日、さいたまスーパーアリーナおよびけやきひろばで医療生協さいたま主催「健康フェスタ」、「国際フェア2011」、「埼玉物産観光フェア」と同時開催され、取引先約100社を含む約250団体が出展。2日間で約10万人に会場いただきました。福島、岩手、宮城県の物産販売や避難されている皆さんの再会と交流の場「ふれあい茶屋」、コープ商品の試食・販売、体験ゾーン等で多くの親子にお楽しみいただきました。会場で呼びかけた義援金に、多くの方にご協力いただいたほか、物産展などの売り上げの一部を義援金としてお預かりしました。

生協バルシステム埼玉

青空市in蔵センター祭り1,000人を超える 来場者で賑わいました

昨年11月に稼働を始めた蔵センターが組合員や地域の皆さまが親しんでいただけの配送センターとなるよう、そして、グループで取り組む100万人の食づくり運動をより知っていただくために、11月26日、青空市in蔵センター祭りを開催しました。埼玉直産協議会「農・彩・土」による青果の販売やバルシステム商品の試食、配送トラックの試乗など、会場は1,000人を超える来場者で賑わいました。



生活クラブ生協

着々と進む、風力発電事業

「原子力で発電された電気は要らない」との思いですすめてきた、再生可能エネルギーによる自給圏づくり構想。その手始めに、生活クラブ首都圏4単協はNPO法人・北海道グリーンファンドと共同で風力発電の事業化に向けて取り組んでいます。建設予定地は、強風を生かして風車建設で町おこしをすすめる秋田県にかほ市。理事数名が数回にわたって現地を訪れ、製造工場も視察しました。また風力発電事業だけでなく、ライフスタイルの転換をはかり、持続可能なエネルギー政策を進めています。

被災者支援の取り組みや多彩な活動が広がっています

コープネット事業連合

被災したお取引先に支援金

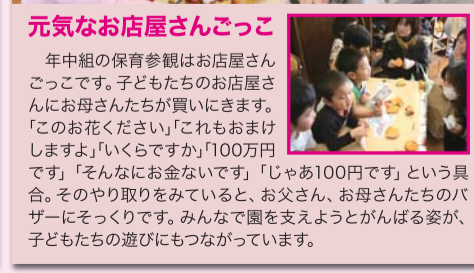
11月2日、コープネットグループ各生協の組合員理事10人と役員6人で、宮城県石巻市周辺にある、東日本大震災で被災したお取引先6社を訪問。各生協の組合員からお預かりした「東日本大震災復興支援募金」の中から合計で600万円の支援金と激励の寄せ書きを贈呈しました。漬け魚などの水産加工品を生産している、水野食品株式会社の水野専務取締役(前列中央)からは、「組合員の皆さんから励ましの声があったからこそ復旧できました」とお礼の言葉をいただきました。12月8日には、岩手県と宮城県気仙沼市周辺の被災したお取引先に支援金をお渡ししています。



子どものその保育生協

元気なお店屋さんごっこ

年中組の保育参観はお店屋さんごっこです。子どもたちのお店屋さんにお母さんたちが買いに来ます。「このお花ください」「これもおかけしますよ」「いくらですか?」「100万円です」「そんなにお金ないです」「じゃあ100円です」という具合。そのやり取りをみていると、お父さん、お母さんたちのパザーにそっくりです。みんなで園を支えようという姿が、子どもたちの遊びにもつながっています。



埼玉大学生協

旧駒西高校での避難生活を送る子どもたちへの支援活動

生協学生理事の呼びかけで7月9日「震災支援経験交流&この夏学生に出来ることを考え話し合う会」を開催しました。5月連休以降、仙台市七里ヶ浜周辺地域への復興ボランティアの取り組みを経験し、夏休みを使い、支援の取り組みを行いたいとの思いを持ち寄りました。教育学部生はじめ50名を超える参加で旧駒西高校避難住民子弟への学習支援活動、カレーを作る企画を行いました。理学部教員・学生有志による出張実験教室も行われ、支援の輪が大きく広がりました。12月1日には、組合員有志による「しゃべり場2・東日本大震災についての交流会」が開催されました。



十文字学園生協

第44回桐華祭で「平和への道～原爆と人間展～」を展示

10月22日・23日に開催された十文字学園女子大学・同短期大学の第44回桐華祭で「平和への道～原爆と人間展～」の展示を行いました。広島・長崎の被爆の悲惨さを伝える写真パネルの展示や大学生協の平和企画「Peace Now!」広島・長崎・沖縄に参加した報告レポート、組合員が店舗を利用した際に平和への思いを「アオギリ」の紙の葉に書きとめた寄せ書き「平和の木」や折り鶴ブースに加え、今年は沖縄の基地問題について、また東日本大震災における原発問題について、生協学生委員で考え意見を貼りだしました。当日は、若い年代の見学者が多く、熱心に感想文を書く姿も見られました。

